

ふりがな 氏名	きのした だいすけ	都道府県	京都府	
	木下 大輔			
所属/肩書	<ul style="list-style-type: none"> ・有限会社 グローバル教育研究所 / 会社員 ・一般社団法人 さよなら不登校 / 職員 			
私のESD活動	不登校やひきこもりの児童・生徒を対象とした学習および発達支援と「学び」のネットワーク作りの実践			

活動の概要

私は所属する機関の中で、京都府教育委員会の認定を受けたフリースクール(以下、FS)事業と、通信制サポート校(以下、TS)の事業に携わっている。私は FS や TS の生徒たちと関わる中で、何度も自分の思考の枠組みが壊れる経験をした。そして、その経験が痛みを伴いながらも、新しい自分や新しい世界に出会う喜びや解放感に満ちたものであり、それを他者と共有することの面白さを実感した。その結果、私はその実感を持ちながら外に開かれ、あるいは外を引き入れ、外へと働きかける不断の運動を「学び」であると考えようになった。

私はその「学び」を色々な場所で実現したいと思い、「東九条フィールドワーク(以下、FW)」という活動始めた。東九条は、在日コリアン・被差別部落・障害者など多様な人たちが、葛藤を抱えながらも対話を繰り返し、助け合いながら生活している地域である。そこへ生徒と一緒に入り込み、在日1世の方や、重篤な言語障害を持つ方と対話をしている。また準備として、事前に自分でFWをし、そこで生活する方々と対話し、文献や映像を見る中で問いを立て、生徒たちとそれらを共有している。さらに、活動後の振り返りをおこない、それを言語化しブログで発信している。その結果、生徒たちからは教科書に載っていない「学び」が面白いと評価され、FWに関わった方々には丁寧な準備と振り返りを発信し続けていることがありがたいと評価されている。

○「学びの森」ハイスクール 第1回東九条フィールドワーク <http://manabinomori.co.jp/blog/blog-968/>

○「学びの森」ハイスクール 第2回東九条フィールドワーク <http://manabinomori.co.jp/blog/blog-1059/>

今後の活動や協働への展望

私はコンファレンスの参加を通して、「学び」のネットワークを組織する活動をより発展させていきたいと考えている。それは、上述したような新しい「公」の教育を考えることと繋がっている。先日、日本とキューバの統合医療についてのシンポジウムに参加してきた。その中で多くの人の共通意識にあったのは、「既存の医療システムの脱構築」である。世界にさきがけ、人口ピラミッドが逆三角形を示す超少子高齢社会に向かえる我が国は、医療や福祉、教育その他あらゆる面で既存のシステムの脱構築を図らなければならないと思う。またそれに加え、AIの発展によるシンギュラリティや、自然災害がいつ起きてもおかしくないという状況で、これからの教育を共同体レベルで捉えなおす必要があると考える。

イリッチは『脱学校の社会』において、社会的・歴史的に構築されてきた文化にも、学校と同様な疎外状況が存在しているため、我々は「何を学ぶか、どのように学ぶかということの管理権」を社会のいたるところで奪還していく必要があると述べた。では、どうやって奪還するのか。「学び」のネットワークを組織することは、それに対する回答でなくてはならないと考える。そのために、私は ESD 日本ユースの一員として、他者と出会い、対話の中で「学び」、協働して社会を変革していくことが当たり前のようにおこなわれる共同体を創るよう協働していきたい。